

[3] 調査研究のまとめ

—総合的な学習の時間の課題と改善方策について—

今回の調査によって、「総合的な学習の時間」についての期待が高いことが把握できたが、さらにどのような課題があり、また改善方策があるかを、いくつかの視点から箇条書きで示したい。

① 「総合的な学習の時間」について、一般的な判断として創設された意義などが高く評価され、児童生徒にも興味ある学習活動であるという認識も極めて高い。そのことから「総合的な学習の時間」の実施に向けて、早急に方策を考える必要があるであろう。

「総合的な学習の時間」の創設の意義や学校主体の実施形態が高く評価され、児童生徒にとっても満足感が高いであろうとする判断が示された。このことから、この時間の実施方策について提示する必要があると考える。これまでの教科等の実施と異なって、教科書がなく、学校独自にカリキュラムを作成することから、「総合的な学習の時間」の意義を認めながら、実施に戸惑っている学校が多くみられると考えるからである。

② ただし、一方では「総合的な学習の時間」は実施上の問題点が多く、学校格差が大きくなると判断されている。学校格差が大きくなることは、わが国の教育全般を考えれば極めて重要な問題であって、学校格差を生じさせない方策もまた早急に必要である。

「総合的な学習の時間」が創設された意義は高いとされながら、一方では実施上の問題点が多く、学校格差が大きくなると判断されている。そうした事態が生じた場合、一部の学校について批判を招

くことが予想され、学校選択の意識を増大させる懸念がある。このような問題点を事前に無くすためにも、各学校が「総合的な学習の時間」を効果的に実施できるための方策の提示と、各学校への支援のあり方について早急に方策が必要である。

③ 「総合的な学習の時間」についての「ねらい」の判断についても、学校の取り組みによって児童生徒に形成できる資質・能力はかなり違ってくるとされる。このことは極めて重要な問題点であって、「ねらい」達成のための方策について具体的な対応を考える必要がある。

「総合的な学習の時間」は、ややもすれば学校独自の学習形態であることから、何でもありになりやすい。しかし、この学習の「ねらい」の意義は極めて重要であって、各学校の取り組みが十分効果をあげるよう努力が求められる。また、一方では学校の教育活動全体で達成すべき「ねらい」であると判断されているように、これからの学校教育の基盤となるものでもある。そこで、「総合的な学習の時間」の十分な認識と同時に「ねらい」達成の方策について具体的・実践的に示すことが重要な課題になると考える。

④ 「総合的な学習の時間」の実施上の問題点では、カリキュラムを構成するのが難しいとされる。教科書がなく、各学校が独自にカリキュラムを作成するのであるから、各学校のカリキュラム作成など、「総合的な学習の時間」の実施に向けて教育研究所・センター等が何らかの支援を進める必要があるだろう。

「総合的な学習の時間」は、カリキュラム作成がもっとも重要である。学校の教育課程の全体的な構想に基づいて、この時間のカリキュラムを作成することは、その内容のみでなく教職員のかかわり方、地域の生かし方など多様な側面を持っている。特に地域の実態等を生かした体験的な活動を主体にしたカリキュラムであるから、学校の独自性が求められる。そのようなカリキュラムの課題を含めた「総合的な学習の時間」の実施に向けて教育研究所・センターが具体的な支援方策を考える必要があるだろう。

⑤ しかしながら、「総合的な学習の時間」の実施に向けた方策は必ずしも効果的な判断が示されないでいる。方策が多様で分散している傾向がみられる。このこと

は教育研究所・センターの講座等の実施のあり方にも同様な傾向がみられる。各教科等と異なる「総合的な学習の時間」の研究・研修のあり方について早急に対策を示す必要があると考える。

「総合的な学習の時間」は新しい学習形態であり、しかも各教科等とは異なっているため、効果的な実施のための方策はまだ確定していない。同様に、教育研究所・センターの対応にもやや戸惑いがみられるようである。したがって従来型の研修講座ではない、新たな研修のあり方、それに伴った研究のあり方などが、これから積極的に開発されることが求められる。その方向は単一な方策ではなく、研修の方法が異なって実施されるなど、複合化された方策になるのではないかと考えられる。